

B31

ファサード改修手法に関する研究 既成市街地に建つ中小ビルの開口部の活用

Study on technique of repairing the exterior wall of the building
- Practical use for Doors and windows of Buildings in Urban Area -

西田司（助手）

須永修通（助教授）

木原 正進（協力者，キマド株式会社）

Osamu NISHIDA (Res. Assoc.), Nobuyuki SUNAGA (Assoc. Prof.)

And Masanobu KIHARA (COE Collaborator, KIMADO. Co. Ltd)

ABSTRACT

Repairing the exterior wall of the building facing the street in urban area, especially the doors and windows. A new frame is built with wood so that it may fit into the existing section of frame entirely. The doors and windows are changed into the new frame depend on how to use. Therefore, heat insulation performance and prevention of noise can improve.

キーワード：開口部更新，既成市街地，内部要求

Keywords: renewal of doors and windows, urban area, borrowers' demand

1. 本研究の目的

大規模再開発によって生まれたオフィスビル、商業店舗の床面積の増大により、都心の既存市街地に建つ中小ビル群は地盤沈下をおこして空きビル化し不良債権化ははじめています。その使われていない空きスペースはオフィスや店舗として借りる店子の変化していく要求水準にうまく適合していないといえる。そこで賦活更新提案として、街路側に面したファサードの開口部に着目し、その開口部を店子の要求や居住性向上に対応して更新していけるシステムを研究開発し、実施プロジェクトの形式で提案する。

2. 神田拠点プロジェクト

神田の下町風情が残るエリアに、大学の拠点をつくるプロジェクト。神田のこのエリアの特性として、住宅もオフィスも商業も道に接して入り口や開口部を設けている。日常の生活行為と町を歩く人の距離が限りなく近い。また、どの建物も道に一杯まで建築していることで、外壁が道路境界線となり、外部に対して建築行為をすることは違法である

そこで町への接点である開口部を内側に拡張するファサード提案を実践している。

2.1 外との接点の数 = 交流の数

開口を持つ北と西のふたつの面をこの建物と地域との接する面と考える。大学の研究の拠点及び展示場などの使われ方を想定し、それらを充足するサイズの異なる棚を開口面より距離を取って制作する。それらの棚はボックス状になっており、研究資料としての本や模型を保管したり、展示をし



写真1 神田拠点内観写真01





写真2 拠点窓横写真

写真3 拠点入口横写真

たり、外の風景を切り取る額縁の役割をしたりしている。緩衝帯があることにより、それら棚の使われ方が開口部を通して、外からも感じ取れる。興味をもてば開口部から緩衝帯を通して実際に棚にあるものに触れたり近づいたりできる。幅をもった境界面が、町の人との交流の場になっている。棚を窓側につくり内側に少し寄せることで、外との接点数を増やし、地域の中の大学施設としてのファサードをつくり出している。

3. Gブティックプロジェクト

古くからの商店街の一角にあるビルの1階にブティックをつくるプロジェクト。滞在時間が長くなればそれだけ購買する率が上がるという統計に基づき、内部では買い物をする人が居心地よく買い物に集中でき、外の人とは視線が交錯せずについて、且つ中の雰囲気を感じ取れるファサードを実施提案している。

3.1 サンドイッチガラス

フロートガラス2枚のあいだに、薄く光も透過する木のチップを挟み込み、開口面をつくり出している。これにより外の光を木漏れ日のように内部に送り込み、内側には木の質感をもった居心地の良い場所が生まれる。外からの視線はカットしつつ、中の雰囲気を外に漏れ出させる効果をもつファサードをつくりだしている

4. 今後の展開

街路と内部との関係において、これまでの神田の路地調査などでしばしば目についた、昔の土間空

間（靴の脱ぎ履きにとどまらず、ちょっとした井戸端会議などが行われる町の小さな公共空間）の特性は、開口部の幅の持たせ方に極めて有効と思われる。

4.1 アクティビティファサード

開口部と接する内部空間を公共的な使用にも対応できるスペースと位置づけ、ファサード改修におけるアクティビティツールとして研究していく。また一時的に道に対してはみ出ることも想定していくと、街の小さな公共空間が道に対して張り出したり、引っ込んだりしながら連続して街並みとなっていくことが考えられる。街の中に人と人との接点が増えていくことで、道を歩く人と街のファサードが賦活更新されていく。



写真4 ウッドチップガラス



写真5 ウッドチップガラス拡大

<制作概要>

フロートガラスに木片をちりばめ、2枚のガラスでサンドイッチした後、高温にして間の空気を抜き、真空に近い状態を作りだしている。





写真 4 土間外観写真

写真 5 土間内観写真



図 1 街路と土間との関係図